

スポーツと前向きな想像力で  
世界を変える



大学入学時に世界一周の旅を決意。事前に日本文化に触れようと、和服で渋谷をジャックするイベントを企画。そこで意気投合した着物屋社長の全面協力の下、和服で世界一周。帰国した春には、2人の仲間とともに GLOBE PROJECT を設立した。現在は株式会社リクルートの社員と GLOBE PROJECT 代表としての二つの顔をもつ。経歴を辿ってみるだけで「次は一体何をしでかすのだろう」とわくわくしてしまう菅原さん。今回は、そんな彼を突き動かす熱い思いに迫りました。

## ◆どんな苦境も乗り越える、スポーツの力

2005年、着物に下駄を履いた菅原さんは、子どもたちの夢を各地で聞き回る世界一周の旅に出た。どの国の子どもも「スポーツ選手になる事」という答えだったが、唯一ウガンダのアルーア難民キャンプで出会った少年の答えは違っていた。その答えとは、

「自分の村を襲った部族に仕返しに行くこと。」

あまりに衝撃的で、菅原さんはその言葉を理解することができなかったという。それでも少し質問を変え、「何をしている時が一番幸せ？」と尋ねたところ、少年は目を輝かせてこう答えた。

「サッカーをしているとき！」

実は菅原さん自身もスポーツに強く支えられた時期があった。それはガンで父親を亡くした高校2年生の時。辛い出来事だったが、ラグビー部の仲間90人が通夜に来て励ましてくれたという。

「自分の居場所はここだと気付くことができた。彼ら、そしてスポーツの存在で、自分が這いあがれたことに気づいた。」

スポーツに打ち込むことで、少年は紛争や難民生活、菅原さんは親の他界という、絶望的な状況を打開することが出来た。「世界の子どもたちのために、自分も何かできないだろうか」という思いから彼のスポーツを使った挑戦が始まった。

## ◆思い立ったら——GLOBE PROJECT の始まり

スポーツを使って子どもたちに夢や希望を与えたい——旅の途中から構想を練り始めていた菅原さんは、帰国後すぐに、活動の趣旨に賛同してくれた同年代の仲間と共に GLOBE PROJECT の原型を立ち上げ、カンボジアへ視察に行った。そこで地雷原のすぐそばでサッカーをする子どもたちに会ったことをきっかけに、フットサル大会“Kick The Mine Cup”のアイデアは生まれた。

この大会で得られた収益は、タイやカンボジアの地雷原で、フットサルコートと同じ面積の地雷除去費用に充てられる。

「サッカーならみんな知ってるし参加もしやすいですからね。サッカーでなくてフットサルを選んだのは、コートの面積の割にプレーに参加できる人数も多いし、コート単位での地雷除去とするとイメージが湧きやすくっていいと思ったんです。」

友人知人に声をかけて参加チームを募り、第1回大会には12チームが参加。菅原さんの熱心なPRが功を奏し、NHKも取材に訪れるなど、初回から大きな注目を浴びるイベントとなった。

## ◆手探りの活動、あえて選んだ就職の道

活動を始めたばかりの頃は、イベントの開催の仕方、スポンサー企業とのやり取りなどは手探りだったが、その都度勉強をしながらの活動を継続。2009年には味の素スタジアムを貸し切り、岡田武史元サッカー日本代表監督らを招くほどの一大イベントを開催できるまでになった。しかし——

「このイベントで大きな赤字を出してしまったんです」

GLOBE PROJECTでの活動を続けていきたいと考えていたが、人や資金の動かし方を学ぶため、菅原さんはあえて就職という道を選び、今に至っている。

## ◆広がっていく Kick The Mine Cup

現在 GLOBE PROJECT 主催の大会は、旅行会社やスポーツ用品会社、温泉旅館など様々なスポンサーの協力を得ながら、約2カ月に一度の頻度で行われている。大会開催のノウハウを提供した上で、Kick The Mine Cup の名前を貸し出し、学生団体など各々が開催しているものも合わせると、年間15～16回開催。菅原さんの取り組みは確実に広がりをみせている。



また、寄付金は確実に渡せるよう、GLOBE PROJECT のメンバーが、旅行会社の協力による現地視察を兼ねた渡航をして、現地の地雷除去団体に直接手渡している。こうして 2006 年の活動開始からこれまでにフットサルコート 78 面分の地雷撤去を終えてきた。

### ◆次なる大きな目標へ向かって

これまでも多くの事業がメディア等で話題になってきた GLOBE PROJECT。次なる大きな目標として、2014 年に「世界アスリートサミット」の開催を目指している。イベントは、国連が取り決めた「ミレニアム開発目標」一貧困人口を 2000 年に比べ 2015 年には半減させる一の達成に貢献する内容にしていく。

「例えば中田英寿選手やマイケル・ジョーダン選手など有名アスリートに声をかけ、大々的にイベントに参加してもらおう。あるいはサミットのオリジナルロゴを作り、それが付いた商品を購入すると、貧困で苦しんでいる地域への支援になるような仕組みを考えています。スポーツを通じ、子どもたちに夢を与えられるものにしたいですね。」

### ◆具体的かつ前向きな想像力と共に、社会の課題へ取り組む

GLOBE PROJECT を立ち上げた仲間や、着物屋・旅行会社・スポーツ用品会社・温泉旅館といった数々のスポンサー企業など、多くの協力者を得てきた菅原さん。これほどまでに人を惹きつける理由は何か。

「やりたいことを実現できた時、どうなっているかをイメージすることがとても大事。夢の実現までをストーリー仕立てで具体的に語る。具体的なイメージを発信することで、周りの人が協力をしやすくなるとともに、それぞれがまた別の人に発信することができ、たくさんの仲間や繋がりを得ることができるんだと思います。」

最後に、これから活動を始めたい若者へのメッセージをお願いすると、そんな彼らしい言葉を残してくれた。

「社会の課題も自分の課題も解決は難しいものが多いですけど、行動することから状況は変化していきます。責任の所在ばかり追究したり、誰かに任せたりするのではなくて、前向きな想像力で、自分で変えていきましょう！」

今後もどんなわくわくする仕掛けで社会へアプローチしていくのか、菅原さんの挑戦は見逃せない。

